

第29回「バックエンド」夏期セミナー
パネルディスカッション

リスク・コミュニケーションについて

2013年8月8日

東京工業大学
グローバル原子力安全・セキュリティ・エージェント教育院

大場 恭子



リスクコミュニケーションってなに？



安全など事業活動にかかわるリスクは、少ないことが望ましいのですが、リスクをゼロにすることはできません。このため、上手にリスクとつきあっていくことが重要になります。特に、多種多様な化学物質を扱っている事業者は、そうした化学物質の環境リスクを踏まえて適正な管理を行うことが重要です。

そのためには事業者が地域の行政や住民と情報を共有し、リスクに関するコミュニケーションを行うことが必要になってきます。これがリスクコミュニケーションです。



経産省

http://www.meti.go.jp/policy/chemical_management/law/risk-com/r_what.htm より

福島で必要とされている リスクコミュニケーションとは

リスクは、少ないことが望ましいのですが、今、事故の影響をゼロにすることはできません。このため、上手にリスクと付き合っていくことが重要になります。

そのためには地域の行政や住民とが情報を共有し、事故の影響に関するコミュニケーションを行うことが必要になってきます。

それがリスクコミュニケーションです。

共有すべき情報，事故の影響②

1. 放射線／放射能リスクを自ら考えるために必要となるさまざまな知識
2. それぞれの方・地域（社会）が抱える問題

帰宅

帰れる（帰った／帰る予定／帰りたくない）

帰れない（帰りたい／帰りたくない）

家族

家族の意見はまとまっているのか？

コミュニティー

元のコミュニティーは維持されているか？

家屋等の状況

回復へのコストや労力は？

仕事

仕事ができる／できない

商売ができる／できない

生活基盤

スーパー，病院ほか

教育

墓

.....

思い, 知識, 経験,
状況(タイミング)等

相手

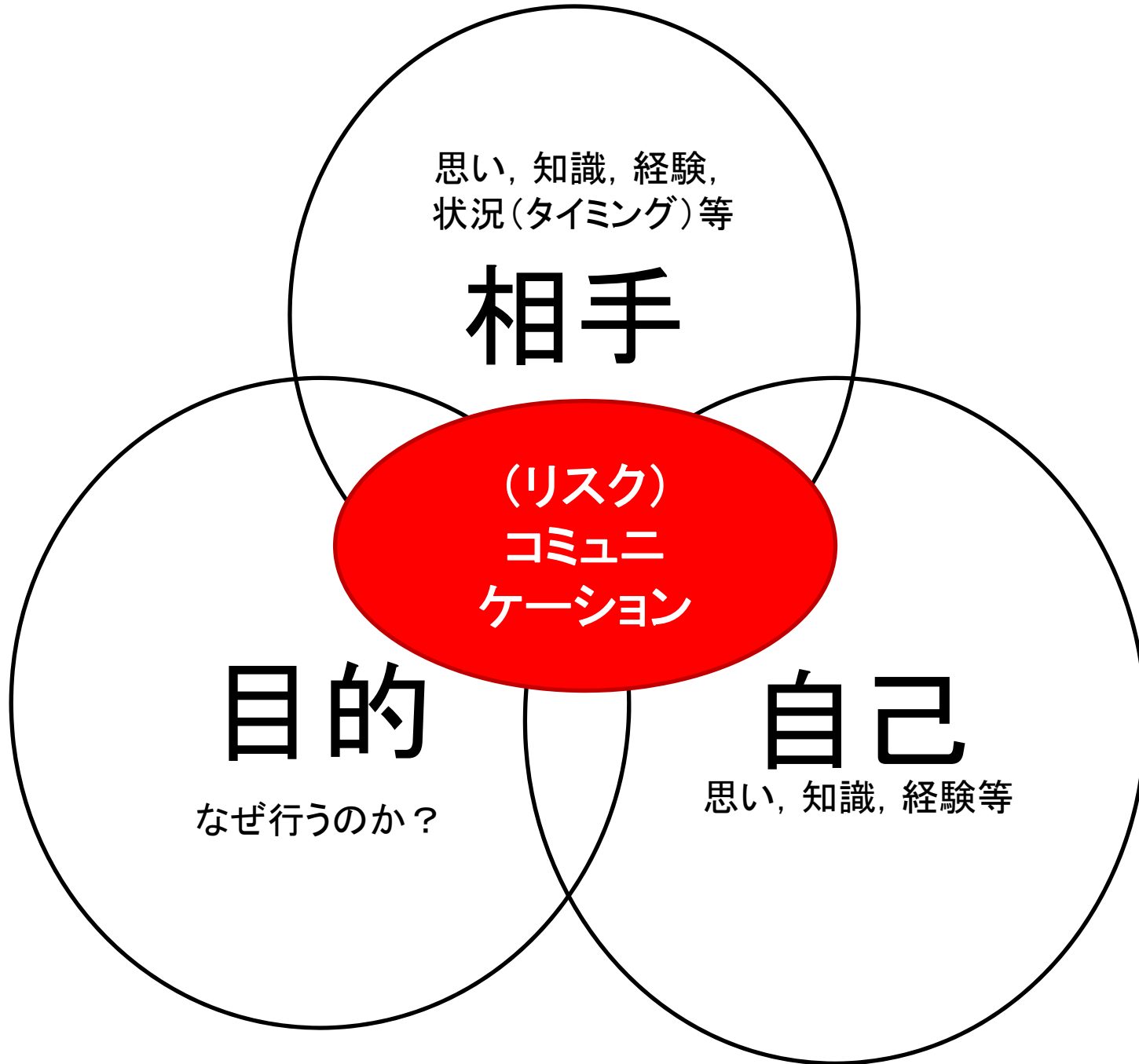
(リスク)
コミュニ
ケーション

目的

なぜ行うのか?

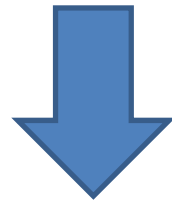
自己

思い, 知識, 経験等



(例) コミュニケーションの目的 共有化！

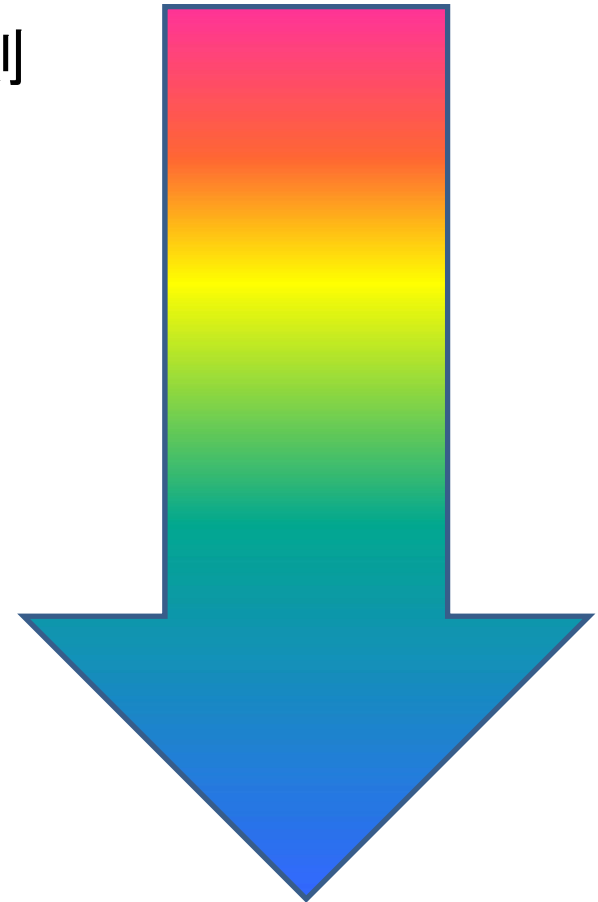
「事実(情報)」の共有:(例)マニュアル, 規則



「意味(目的)」の共有:(例)作成した“目的”

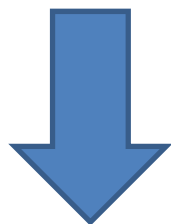


「考え方」の共有:(例)理解

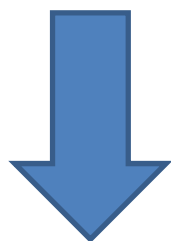


福島に必要とされている リスクコミュニケーションの目的 「(個・社会)よりよい未来」を共有化する！

「事実(情報)」の共有:(例)抱えている問題,
科学的事実



「意味(目的)」の共有:「(個・社会)よりよい未来」



「考え方」の共有:行動

リスクの低減, リターンの増高

